

安心と信頼を未来につなぐ亀岡の上下水道

「おいしい水と循環のみち」



亀岡市上下水道ビジョン 2021~2030 概要版

亀岡市上下水道部

1

ビジョン策定の趣旨

いま、本市をはじめ全国の水道・下水道は、水需要の減少、施設の老朽化、常態化する自然災害への対応という、これまでに経験したことがない課題に直面しています。時代の移り変わりや課題を乗り越えて、本市の発展とともに築いてきた水道・下水道を次の世代に引き継いでいかなければなりません。

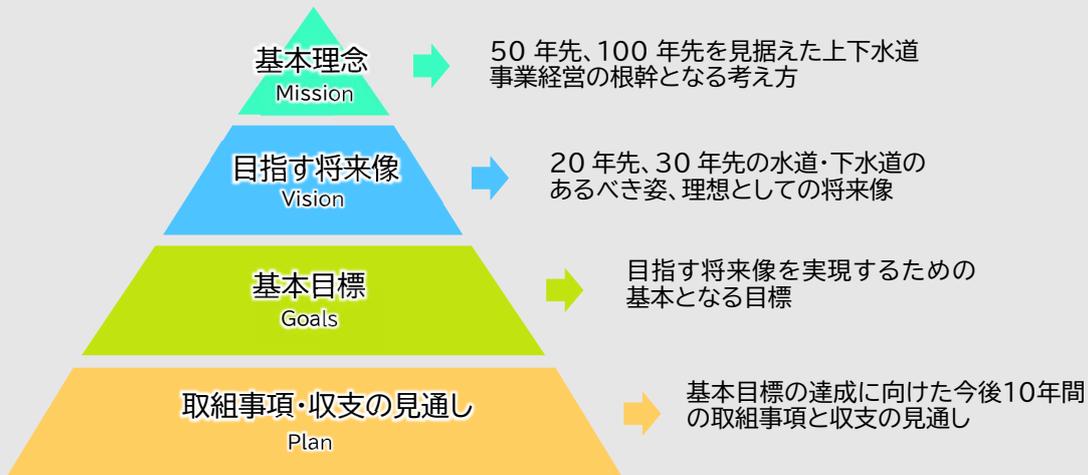
亀岡市上下水道ビジョンは、50年先、100年先を見据えた亀岡市上下水道事業の存在意義や使命をもう一度問い直すなかで、そのあるべき姿、目指す将来像を描くとともに、その将来像を現実のものとするためにいま何が必要なのかをお示しするものです。

基本理念

SDGs(持続可能な開発目標)の理念のもとに、本市の水道・下水道がこれからも「あたりまえ」であり続けることで皆さまに「安心」をお届けし、皆さまの「信頼」にお応えするとともに、亀岡の美しい自然が育んだ「おいしい水道水」を守り、下水道がもつ水・資源・エネルギーの「循環のみち」としての可能性に挑戦することで、輝かしい「未来」を切り拓いていくという決意を込めて、亀岡市上下水道事業の基本理念を次のとおり定めます。

安心と信頼を未来につなぐ亀岡の上下水道
～ おいしい水と循環のみち ～

ビジョンの組み立て



計画期間

令和3(2021)年度から令和12(2030)年度までの10年間を計画期間とします。



SDGs(持続可能な開発目標)



2

事業をめぐる情勢

1 人口の動向

本市の人口は、平成12(2000)年をピークに減少に転じており、令和12(2030)年には約77,000人、令和27(2045)年には約61,000人と、全国平均の2倍のスピードで急速に減少すると見込まれています。

人口減少は、水需要や料金収入の減少だけでなく、施設の稼働率の低下による採算性の悪化など、上下水道事業の経営全般に大きな影響を与えます。

本市の人口推移および将来予測



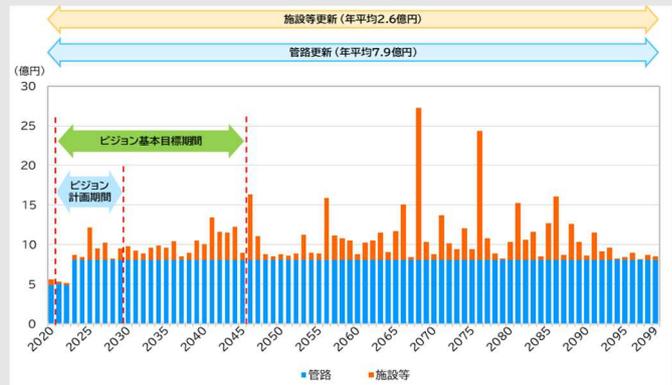
出典：国勢調査および国立社会保障・人口問題研究所による平成30(2018)年推計値

2 更新需要の増加

本市の水道・下水道は、人口増加とともに急速に普及が進み、市の発展や生活の向上に大きく寄与してきました。施設が老朽化すると事故や故障などにより機能が停止し、市民生活や経済活動に大きな影響を及ぼすことから、定期的に改築や更新をしていく必要があります。

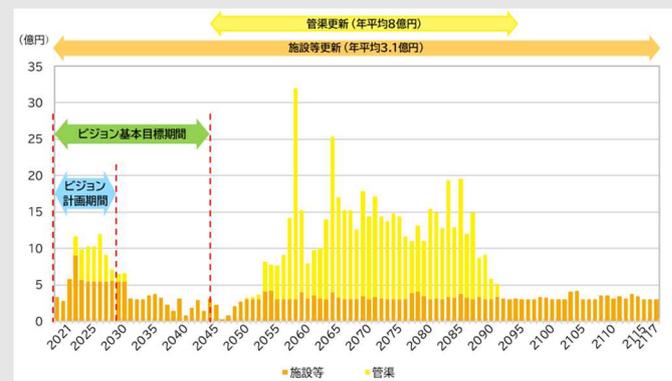
水道事業の投資計画

ビジョン計画期間(10年間)では、基幹管路を中心とする老朽管更新に74.2億円のほか、管路以外の施設更新に12.9億円、水道拡張事業(王子配水池)および庁舎移転などに10.9億円の総額98億円(年平均9.8億円)の投資を見込んでいます。



下水道事業の投資計画

ビジョン計画期間(10年間)では、管渠以外の施設更新に53億円のほか、犬飼川左岸の雨水排水施設整備事業に6億円、小規模下水道の公共下水道への統合および施設更新などに30億円の総額89億円(年平均8.9億円)の投資を見込んでいます。



3

目指す将来像・基本目標と取組事項

亀岡市上下水道事業の基本理念のもと、20～30年先の本市上下水道事業の目指す将来像を描き、その実現に向けて着実に取り組みを進めることとします。

目指す将来像

いつも、いつまでも安心をお届けし信頼される水道・下水道であり続けることを願い、「安全・快適」、「強靱」、「持続」、「環境」の4つの言葉をキーワードとして目指す将来像を描きます。

安全 快適

おいしい水道水を配り、下水を排除し処理することで、皆さまに安全と快適をお届けします。

強靱

災害の時にも役割を果たし続ける強靱な水道・下水道をつくります。



安心と信頼を 未来につなぐ 亀岡の上下水道

～おいしい水と
循環のみち～

持続

効率のよい安定した経営を維持し、皆さまのライフスタイルに合った質の高いサービスを提供します。

環境

健全な水循環を維持するとともに、地球環境に配慮し、循環型社会の構築に貢献します。



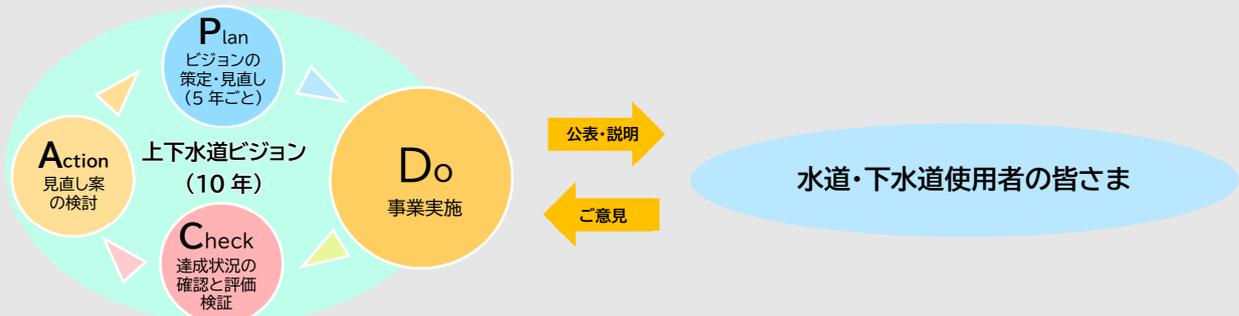
基本目標と取組事項

4つの目指す将来像のもと、その実現に向けた今後の取り組みの基本となる9つの目標と取組事項を次のとおり定めます。

基本理念	目指す将来像および基本目標	取組事項	取組内容
安心と信頼を未来につなぐ 亀岡の上下水道 おいしい水と循環のみち	将来像1 安全・快適		
	1 安全でおいしい水の安定供給	- 水道施設の管理と更新	- 定期的な漏水調査と修繕 - 老朽水道管の計画的な更新 - 設備機器の計画的な更新
		- 水源から蛇口までの水質管理	- 水源水質の監視と取水運転の最適化 - 水安全計画の運用の強化
	2 下水道による快適な生活の実現	- 給水装置の水質管理	- 貯水槽水道の管理支援 - 直結給水の拡大
		- 水道未普及地域の飲用水の確保	- 家庭用取水施設の整備の支援 - 共同管理水道の老朽施設更新の支援
		- 下水道施設の管理と更新	- 年谷浄化センターの長寿命化 - 不明水の調査と管渠の修繕
		- 浸水対策	- 雨水排水施設の整備の推進 - 雨水貯留施設の整備の促進
	将来像2 強靱		
	3 災害に強い強靱な施設の整備	- 水道施設の災害対策	- 基幹管路の耐震化 - 非常時バックアップ施設の検討
		- 下水道施設の災害対策	- 年谷浄化センターの耐震化 - 下水道施設の耐水化
	4 危機管理体制の強化	- 災害対応力の強化	- BCP、危機管理マニュアルの改善 - 災害時活動拠点の整備
		- 災害時の連携強化	- 応急給水機材の充実 - 関係団体等との連携 - 使用者の皆さまとの連携
将来像3 持続			
5 お客さまサービスの充実	- 広報・広聴の充実	- わかりやすい情報の発信 - 上下水道の役割や魅力のPR - 学習の場の提供	
	- お客さまの利便性の向上	- 定期的なアンケート調査の実施 - お客さま窓口の充実 - 料金収納サービスの向上 - スマートメーターの導入	
6 持続可能な経営基盤の強化	- 健全な財政の確保	- 水道事業の企業債発行の適正化 - 料金体系等の見直し - 料金水準のあり方の検討	
	- 人材の確保・育成と技術の継承	- 下水道施設更新のための資金の確保 - 熟練職員の技術の継承 - 職員の専門性の向上	
	- 適切な資産管理の推進	- アセットマネジメントの実践 - 設備投資の合理化 - 下水道施設の統合	
7 効率的な事業経営の推進	- 民間連携	- 施設管理業務委託の改善 - 窓口業務委託の内容の見直し	
	- 広域連携	- 新たな民間連携の研究 - 水道用水供給事業の推進 - 近隣自治体との事務の共同化	
将来像4 環境			
8 健全な水循環と地球環境への配慮	- 健全な水循環の維持	- 下水の高度処理化 - 水源森林の保全	
	- CO ₂ の削減	- 施設の省エネ化の推進 - 再生可能エネルギーの活用	
9 循環型社会の構築への貢献	- 給水スポットづくり	- 給水スポットの普及促進	
	- 下水道資源の有効利用	- 下水汚泥の有効利用 - 消化ガス発電の推進	
	- 地域資源の循環の役割の発揮	- 浄化槽汚泥の資源化 - 生ごみの受け入れ - 廃棄物の資源化の研究	

計画のフォローアップ

ビジョンの達成に向けて、PDCA サイクルによるフォローアップ(進捗管理)を行っていきます。



4 収支の見通し

水道事業の見通し

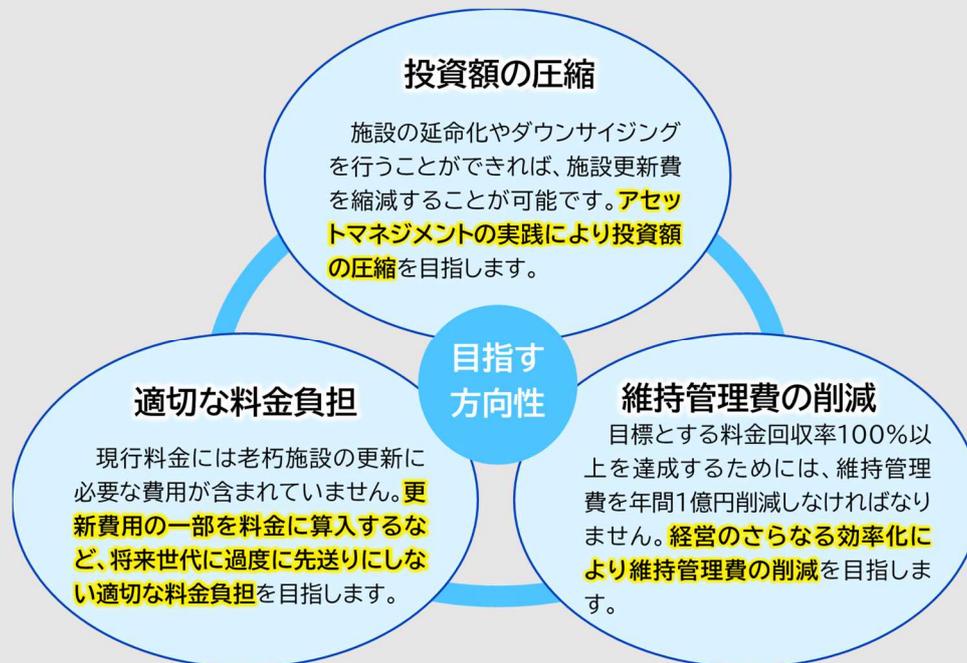
今回の収支の見通し結果では、年平均 9.8 億円の投資額に対し、年平均 2.7 億円の資金を追加調達する必要があります。

これをこれまでに蓄積した自己資金で賄うと、6 年後の令和 8(2026)年度には自己資金の保有額が 10 億円を割り、10 年後の令和 12(2030)年度には経営資金が枯渇することになります。



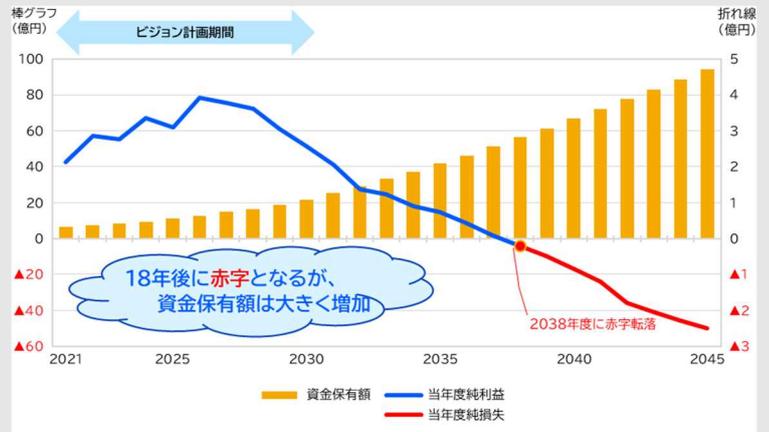
水道事業の今後の財政運営の目指す方向性

現状の資金力にあわせて投資を抑制したり、資金不足を借金で賄ったりすることは、問題を先送りにしたり、将来世代に過度の負担を強いたりすることにほかなりません。将来にわたり安定した経営を続けていくためには、本当に必要な費用や投資を惜みず、そのために必要となる資金を調達することが必要です。



下水道事業の見通し

今回の収支の見通し結果では、年平均 8.9 億円と現状の 2 倍以上の投資額を見込んでいますが、その後は施設更新が一段落し、企業債の償還もピークを過ぎて減少に転じることから、企業債残高は大きく減少し、自己資金の保有額が増加するなど、財政状況の改善が見込まれます。



下水道事業の今後の財政運営の目指す方向性

本ビジョンの計画期間内においては、小規模下水道の統合などに相應の投資が必要になりますが、長期的にみると、管渠更新が本格化する令和 35(2053)年度までの間、一時的に「施設更新の空白期間」が生じることから、資金の蓄積が可能になると見込まれます。

管渠更新資金の確保

企業債償還金が減少し、施設投資が一段落することで一時的に資金に余裕が生じることから、**来るべき管渠更新の集中期に備えた基金の造成**を目指します。

維持管理費の削減

施設の統合やダウンサイジングなどにより施設効率を高め、**維持管理費を削減**することで、目標とする経費回収率100%以上の達成を目指します。

目指す
方向性

下水道施設の統合スケジュール

区分	地区名	処理施設名	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027	R10 2028	R11 2029	R12 2030	R13 2031	R14 2032	R15 2033	
農集	半国	半国浄化センター	接続工事			公共下水道							
	宮前	宮前浄化センター	接続工事			公共下水道							
	本梅	本梅浄化センター	接続工事			公共下水道							
	川東	川東浄化センター										接続工事	公共下水道
	犬甘野	犬甘野浄化センター										更新工事	
特環	保津	保津浄化センター	接続工事			公共下水道							
小規模	小泉	小泉浄化センター										更新工事	

(注)「農集」、「特環」、「小規模」は、それぞれ「農業集落排水処理施設」、「特定環境保全公共下水道」、「小規模集合排水処理施設」の略称です。



亀岡市



編集 亀岡市上下水道部

発行 令和3(2021)年3月

〒621-0811

京都府亀岡市北古世町1丁目2番5号

<https://www.city.kameoka.kyoto.jp>